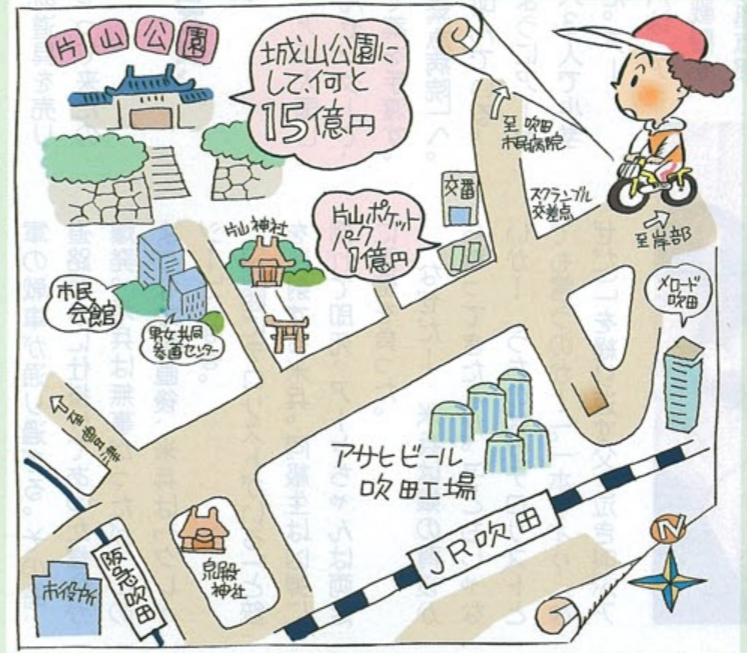


えっ？片山公園にお城？JR吹田北側に位置する片山公園は、歴史的に「吹田城があったのではないかと考えられている場所。吹田市はそこに約15億円を使って「城山公園」を作るという「夢」を持っているらしい。マジっすか？と思わずツッコミたくなるような「夢」であるが、早速その「城山公園予定地」を歩いてみた。

片山公園に“お城”！？ マンガイみたいな話やね

JR吹田駅北口から府道大阪高槻京都線に出て、スクランブルを西へ曲がると、片山神社の鳥居が見えてくる。このあたりは片山というだけあって、こんもりとした丘になっている。
「あっ、あれ見てくださいよ。片山公園の入りを立派な石垣にして『お城風』に整備していますよ」「奥に

15億円かかるって税金やろ？



お城より私らのために使ってほしいわ～



片山公園入口には門があり、「お城風」に整備されている

石垣もなぜか「お城風」である

「お城？ウソでしょ。漫才みたいな話やね」その計画に15億円も使うって言うからビックリしてるんです」「15億円って税金やろ？お城にお金使わんと、市民のために使うべきやね。その後も通りがかる人々に尋ねたが、知っている人なし。「私らをからかっているのか？」「そんなん許されへん」など、厳しい意見が相次いだ。

片山公園の坂道を下ると、渋滞で有名な「片山町2丁目東」のスクランブル交差点。交番の隣に「片山ポケットパーク」が出来ている。この公園の電灯は太陽光発電で、マンホールは災害時、カパッと開ければトイレになるらしい。さらにはベンチががまどになる仕組みで、被災者がここで火をくべて暖を取ったり食事を作った

りする「機能」が満載。「このポケットパークに1億円かけたんやて」「大通



片山ポケットパークと交番。交差点信号待ちの人は多いが、ポケットパークで遊ぶ人は少ない

りに囲まれているので危なくて子どもを遊ばせられへんね。

スクランブル交差点では信号待ちの人々が増えてくる。しかしほとんどの人はポケットパークで安らぐとはしない。本当に1億円もかけて作らねばならなかったのか？...
では少し吹田市建設緑化部に尋ねてみよう。

ポケットパークに1億円！ ホンマに作らなアカンかったんか...

片山公園を城山公園にするというのは本当ですか？
「計画というより」市長の「夢」のようなものです」
15億円というのはいくらでた数字ですか？
「平成17年5月議会で、「城山公園にするなら15億円くらい必要」と部長が答弁し

ました」
片山公園の再整備に7億7千万という数字。これは実際に使ってしまった？
「ええ。7億7千万は公園整備に支出済みです。ですから城山公園にするには、さらに15億円必要ということですよ」

お城に15億円か...。ハッ、なぜかため息しか出てこない、今回の青年探偵団であった。

勝手に吹田遺産 その3

釈迦ヶ池

岸部北にある釈迦(しゃか)ヶ池。名神高速に分けられ、柵に囲まれ、住民との距離が遠のいた感じですが、この池の水は農業用水として長いあいだ岸部の地を潤してきていました。昔から吹田の地はじール工場が建つほどに湧水で有名どころですが、こと田畑を潤す水に関しては安威川か、ため池にたよるほかはなく、農業用水の確保に苦勞をしていた記録が残ります。釈迦ヶ池は1000年以上も前に、田んぼに水を引くために掘られたため池で、この水を喜志部村の上の田から順番に下の田に流してました。だが、日照り続きとなれば貴重な水は上の田んぼに吸い込まれてしまい、低い南村の農地まで水は届きません。

から慶長年間に、この地の実力者であった喜志弥六左衛門という人が、釈迦ヶ池から直接、下方の南村の田畑にまで水路を掘ることを申し出て、水路(うま川)を完成させました。釈迦ヶ池の水は水路を通り直接南村の田畑をうるおし人々はたいそう喜びました。そこで村人は最初に流されてきた水の三分をお礼として喜志氏の所領に送りました。
それからしばらく、時代は大坂城をめぐって最後の合戦があり豊臣家が滅亡するという大混乱期をむかえます。いまだ言え「勝ち組、負け組」の時代、吹田の岸部では、釈迦ヶ池の大切な水を上の村も下の村も仲良く分け合って共存したといえます。智恵ある先人たちに乾杯！